

2026年6月29日

第49回定時株主総会 質疑応答概要および事前質問へのご回答

株主総会における質疑応答概要

株主総会における、株主さまとの質疑応答の概要について、ご報告申し上げます。
当社は、株主の皆さまのご期待にお応えできるよう、企業価値向上に向けて取り組んでまいります。今後とも皆さまのご理解とご一層の支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

【質問①】

東京証券取引所（以下、東証という。）は、親子上場における上場子会社に対し、少数株主の保護を適切に図る必要があるとしている。親会社である株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下、MUF Gという。）との関係および少数株主保護の考え方について伺いたい。

【回答】

MUF Gとの関係について、経営の重要な意思決定に関しては事前に承認を得るという手続きを取り、それ以外の業務執行においては、経営の独自性、独立性を維持しております。当社の強み、MUF Gの強みをしっかりと活かしながら、更なる業容拡大、企業価値の向上に努めてまいります。

少数株主保護については、利益相反諮問委員会を設置し、独立性を持つ3名の委員によって、少数株主の利益の保護が確保されているかを審議し、取締役会に提言する対応を実施しております。

【質問②】

第2号議案に関して、取締役候補者のうち女性はタン取締役のみであり、執行役員も男性のみとなっている。コーポレートガバナンス・コードでは2030年までに女性役員30%以上が求められているが、どのように女性役員の比率を引き上げていくのか伺いたい。

【回答】

将来を担う女性管理職の育成を計画的に進め、多様性のある会社とすることが重要と考えております。足元では、若い年代から女性管理職を登用し、女性を中心としたワーキンググループの推進、女性を対象とした研修を実施するなどしてリーダーの育成に努めております。この中から次のステップである幹部候補研修を受講するよう対応を進めております。

このような対応を継続的に実施することで、安定的に女性役員、管理職の登用につなげ

ていきたいと考えております。

【質問③】

利息返還損失引当金を 415 億円引き当てているが、引当金残高が 100 億円を下回るタイミングはいつ頃と考えているのか伺いたい。

【回答】

引当金が 100 億円を下回る時期を示すのは難しいですが、利息返還請求の減少トレンドは継続し、引当金も減少していくと考えております。

【質問④】

海外進出は東南アジアを中心に実施されているが、欧米諸国への進出は考えているのか伺いたい。

【回答】

欧米諸国においては、同地域でのリテール業はマネーロンダリング、テロ資金供与防止等に膨大なリソースが必要となるため、収益性を確保することが課題となっております。

また、ブラジル、メキシコなどの中南米についても調査を実施しておりますが、税制、コスト面に課題があると考えております。

【質問⑤】

東証スタンダード市場からプライム市場へ移行する考えはあるのか伺いたい。

【回答】

当社がスタンダード市場へ上場しているのは、流動株式比率が 25% から 35% の間であることが理由となります。プライム市場の上場基準は流動株式比率 35% 以上となります。M U F G を含む固定株主に当社株式を保有いただいている現状で、プライム市場への移行について当社が明確にお答えすることは難しいと考えております。

株主の皆さまの期待に応えるべく、引き続き、経営努力を続けてまいります。

【質問⑥】

タイ、フィリピン、マレーシアの貸出金利を伺いたい。

【回答】

タイについては、利息制限法があり、上限金利 25% の範囲内で貸し出しを行っております。フィリピンについては、利息制限法がないため、リスクとリターンを考えながら、金利 50% 前後の商品も提供しております。マレーシアについては、利息制限法があり、年利ベースで 28% 程度となっております。

事前質問へのご回答

株主総会に先立ち、お寄せ頂いた事前質問について、ご回答申し上げます。

【質問】

利息返還請求に対し、消滅時効等、貸し手としての適法適正な権利主張は的確になされているのか伺いたい。

【回答】

お客さまからの利息返還請求に対して、既に消滅時効の期間を経過している場合は、法令に基づき、適正に消滅時効の援用等を実施しております。

以 上